

UIFA JAP●N NEWSLETTER

■主な内容

海外交流の会報告 これからの高齢者住宅とグループホーム
 第14回 UIFA 世界大会、トゥールーズ（仏）で開催決定
 私の研究・私の活動
 研究会「U・D一多領域からの挑戦」の報告
 高齢者が高齢者を支える一カナダの福祉を学ぶ老年学セミナー
 私らしく働く一地域で、組織で NO.4
 「私らしく学ぶ」一もう一つの Degree をめざして一
 「遊び」が前面、「仕事」は背景
 この指とまれ報告
 UIFA 会員の本
 UIFA 関連団体からのよびかけ
 役員会報告



海外交流の会での井上裕氏

◇海外交流の会報告 第30回 2003年11月29日
 講師：井上 裕氏

「これからの高齢者住宅とグループホーム」 平井美蔓

「建築と生活のかかわり」をテーマに高齢者の終の棲み家の実情を北欧と英国に求め、2001年から2002年にかけて調査・研究された井上裕氏が、日本の現状に対して提言されていることは、明確で切れ味が良い。

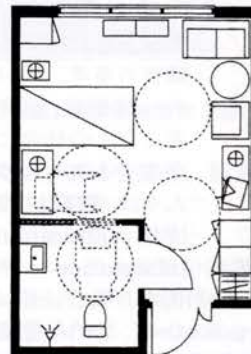
我が国における①100～120万戸の高齢者住宅不足は、今後その需要が伸びていくことを意味する。②優れた高齢者住宅計画に基づけば、その投資に高い社会的リターンが期待でき、③高齢者の生活の質を高めるだけでなく、若い人達の生活水準の向上につながる。大都市のみならず地方の中小都市において④高齢者住宅をまちづくりの中核に位置付けることができれば、街の再活性化や美しい街並の創造も可能となる。⑤金融機関の不良債権となっている多くの土地をその住宅のために活用できれば、日本の金融部門には力強さが蘇り⑥財政赤字を解消するための公共事業の削減を計る過程で、高齢者住宅建設支援にその予算の一部を注ぐことができれば、建設部門における失業問題の緩和につながる。高齢者住宅を鍵とした日本再生プランである。

この提言は、北欧・英国の長期介護の環境が、病院のような施設ではなく、生活の質を重視した「住宅」とし

て整えられつつあるとの事実視点に置くことによって支えられている。

グループホームの建設にあたって、政府住宅銀行からの融資と補助の基準が、ナーシング・ホームの場合で居室面積が24㎡以上、ケア付き住宅の場合は55㎡以上とされるノルウェイの例、グループホームにおける個室が33㎡のスウェーデンの例などに、建築的な環境づくりの姿勢を知ることができ、終の棲み家に必要とされる人間的な豊かさとは何かを考えさせる。

痴呆性高齢者のグループホームにおいて、家庭的な環境づくりに緻密にとりこんでいるフィンランドの例では、心温まる建築的配慮が印象深い。



ナーシングホーム居室プラン(24㎡)



座っていても外が眺めやすい窓

出典：『これからの高齢者住宅とグループホーム』

第14回 UIFA世界大会 トゥールーズ（仏）で開催決定！！

第14回 UIFA 国際女性建築家会議(14th Congress of the International Union of Women Architects)が下記の通り開催されます。会議のテーマや会議後のツアーについては、まだ詳細が不明です。近々ご案内が届くと思いますが、会員の皆様には今からスケジュールの調整や準備等をよろしくお願ひします。

会 期：2004年9月1日～9月5日
 開催場所：トゥールーズ(Toulouse=仏)

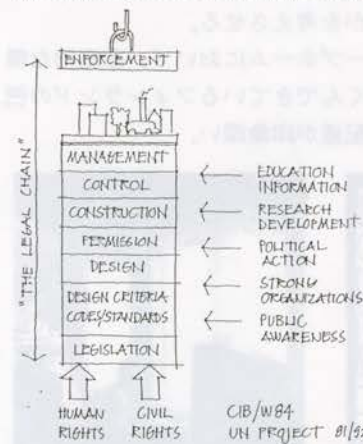
研究会「UD—多領域からの挑戦」の報告

水村容子

■Sven 氏たちのユニバーサルデザイン（UD）の活動

2003年10月、日本女子大学において、Sven Thiberg、Alice Thiberg ご夫妻により、「UD—多領域からの挑戦」（主催：日本建築学会ノーマライゼーション環境小委員会）が開催された。Sven 氏は元スウェーデン王立工科大学教授、Alice 氏は元消費庁居住部門部長を務められ、日本の福祉的な視点を備えた住宅・施設研究に大きな影響を及ぼしてきた研究者・建築家で、知人・門下生には、多くの日本人も含まれる。Sven 氏は、現在 Nordic Council of Research、Coordinator of Consumer Research および European Union of Eco-level などの諸団体において中心的なメンバーとしてご活躍なさっている側面から、また、Alice 氏は消費庁コンサルティングの経験から、住宅市場のUDの在り方、実践方法についてお話をいただいた。

Sven 氏は、中心メンバーである EIDD (European Institute for Design and Disability) の活動状況を通じて、UD の具体化の手法について報告した。EIDD とは、現在ヨーロッパにおいて EU に対する圧力団体として活動している。EIDD によると、ヨーロッパでは、ユニバーサルデザインを意味する概念として、UD (Universal Design) と Design for All という概念があり、UD とは哲学的な人間観をも含めて、包括的に全ての人のためのデザインを行っていくそのプロセスの段階を意味し、Design for All とは、そのデザインの実際的なアウトプットの段階を意味するという位置づけのようである。特に EIDD では、UD や Design for All といった概念を、実際のデザイン市場に乗せるための人材育成に力を入れている。



左図 (Sven 氏作成) には、UD や Design for All といった概念を普及するための、各専門職の連携の在り方が示されている。障害当事者、デザイナー、建築家、研究者などこの社会に存在するあらゆる人々は、教育および情報 (Education Information)、研

究の開発 (Research Development)、政治的な行動 (Political Action)、強力な組織化 (Strong Organization)、公的な意識啓発 (Public Awareness) の段階を通じて、UD の実現化を図る必要があり、その根本に位置づけられるものは、人権 (Human Right) や市民権 (Civil Right) であると力説なさっていた。

■高齢者や障害者と共に暮らす街づくり

一方 Alice 氏は、主としてスウェーデンの住宅政策・住宅市場の現状について話された。社会保障の一貫として住宅づくりが進められてきたスウェーデンにおいても、経済界の影響を受け、売り手市場の高級かつ過度な装飾が施された分譲住宅物件が増えつつあるようである。こうした現状に対し、氏は、再度スウェーデンの住宅政策の伝統である、人権を保証する器としての住宅供給へ、その方向性を転換すべきであると、主張なさっていた。

高齢者が高齢者を支える カナダの福祉を学ぶ老年学セミナー

田中厚子

■福祉の基本—人権主義と多文化主義

2000年から毎年3月に、カナダ、オンタリオ州キングストン市で老年学セミナーを行ってきた。受け入れ先であるセント・ローレンス・カレッジの先生方と毎年内容を議論しながら、講義・見学・交流を3本柱とするセミナーに通訳として参加し、介護を専攻する学生さんと一緒にカナダの福祉事情を学んでいる。

カナダの福祉は、人権主義と多文化主義を基本に幅広い活動によって支えられている。高齢者の住まいとしては、高齢者アパート、有料老人ホーム、ロング・ターム・ケア (長期入院施設) があり健康状態によって選択できるが、出来る限り自宅での一人暮らしを望む人が多い。一人暮らしを支える家族以外のサポートには、高齢者協会、デイセンター、VON (Victoria Order of Nurses) などの各種ボランティア組織がある。ボランティア意識は非常に高く、多くの団体のボランティア数は支援される人数の1~2割、その年齢層は中学生から80代までと幅広いが、多くは60歳以上であるという。



モミジ・センター・レジデンス



キングストン・シニア・センターのコンピュータ教室 写真：田中

■小学校の廃校をデイセンターに

このような高齢者による高齢者支援を実践している例として、キングストン・シニア・センターがある。廃校になった小学校をデイセンターに改築したもので、管理運営・改築工事のすべてを地域の高齢者協会が数年がかりで完成させた。正規の職員は4人しかいないが、4500人の会員が各々担える部分を受け持ち、大工仕事やペンキ塗りをしてきた。教室はゲームや講義に、体育館はジムやダンスのクラスに利用され、「高齢者による高齢者のためのセンター」をモットーに、コンピューターの設置から売店の運営まですべて会員が行っている。1週間に500人程度の利用があるとのことで、見学した日もいきいきとした歓迎の声につつまれた。お仕着せでないところが活発な活動の要因かもしれない。

トロント郊外スカーボロにあるサポーターティヴ・ハウジング、モミジ・センターは、日系人が多く入居している高齢者施設である。第二次世界大戦時に日系人が隔離収容されたことに対する補償金をもちよって1976年から計画され、1992年に完成した。パーソナル・サポートが受けられる133室17種類のレジデンスに加え、共有部分として食堂・談話室・美容室・売店・トレーニング室が併設されている。建築のデザインに日本的なモチーフが見られ、日本語教室や日本の行事も恒常的に開催される。カナダの公的な施設でありながら、文化性を尊重した特例を設けるところに、多文化主義を標榜するカナダの特徴があるといえるだろう。

毎回約10ヶ所の福祉関連施設を見学していますので、興味のある方は、来年3月の老年学セミナーにぜひご参加ください。(Eメール: BYL01463@nifty.ne.jp)

<地域で>

「私らしく学ぶ」— もう一つのDegreeをめざして—

古村伸子

■娘たちと同じ大学の学生

私は昨年の秋学期から米国コロラド州にある University of Colorado at Denver の Urban and Regional Planning 修士コースで勉強しています。大学卒業以来、まちづくりの仕事を中心に 20 年以上仕事をしながらずっと温めてきた希望がかなったこととなります。2 人の娘たちも同じ大学のボウルダー校で別の学部にて在籍し、「お母さんが同じ大学の学生だなんて weird (変な感じ)」と言っています。

大学院の入学時期の関係で、初めにコミュニティカレッジ (短大に近い内容の学校) で 7 ヶ月間英語のブラッシュアップをはかりました。学生たちは年齢も環境もさまざまで、たとえば、学期の初めには赤ちゃん連れで教科書を買う家族の姿をたくさん見かけました。次に今と同じ The College of Architecture and Planning の学部生として 8 ヶ月間、大学院に移行できる単位を取得しました。

大学院での最初の学期は、大変だった学部の授業を大きく上回る課題で、学期末にはうなされるような日が続きました。しかし、どのクラスでもオフィスアワーを最大限に活用でき、いつも先生方がとても丁寧に対応してくださいました。しかもコロラドのまちづくりのことから発展途上国の貧困問題に至るまで、私の興味ある内容が都市計画の専門科目の中ですんなりとカバーされ、さらに授業によっては大半の学生は実際の仕事経験があって学部の専攻も多様なことから議論の質も高く、言語の厚い壁はあるものの、ある意味ではとても快適な環境です。シラバス (授業計画書) も明解で、成績の評価基準も細かく明示され、さらには Faculty Course Question によって学生からも授業の内容を評価する仕組みができています。



総長エリザベス・ハフマンさん (左) アカデミック・アドバイザーと筆者
写真: 古村

■コロラド大学

コロラド大学は州立大学で、三つの分校があります。写真はボウルダー校の卒業式で撮影したもので、左が三校全体の総長エリザベス・ハフマンです。二つの博士号を持つ彼女はフルタイムのロビーイスト三名を活用し、州の予算獲得だけでなく一般からの研究費を今年度 2.5 億ドルも集めた手腕の持ち主です。右はボウルダー校の学長です。

デンバーは、今が -20℃ を記録する本格的な寒さで、雪のロッキー山脈に青空がとてもきれいです。皆さんも都市計画の授業を覗きに来てみませんか? どの授業もゲストは歓迎されます。

<組織で>

「遊び」が前面、「仕事」は背景

岩崎恵子

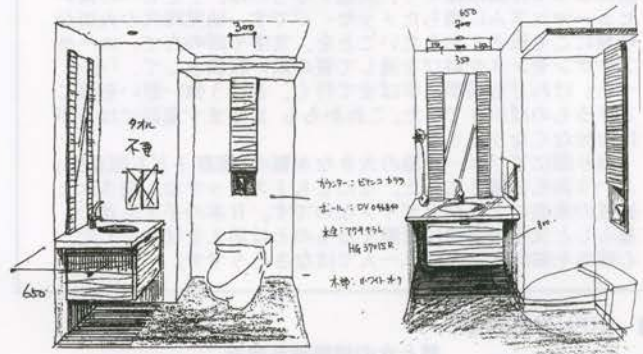
■手がかりは海外とのつながり

仕事の予定を入れる時、週末に入っている「遊び」を犠牲にするような事は考えたくない。一度きりの人生、楽しむ時間を削ることは「マイナス」と思っている。だから仕事ばかりしているわけにはいかない。社会人になり、妻になり母になっても全く変わらない。

70 年代に M 社 (=外資系デザイン会社) に就職し、外国企業の日本進出の際のオフィス・インテリアの相談と実施に関わった。総勢 50 人程の中で数人の女性デザイナーの一人としてダイレクトに相手のトップと打ち合わせができたのは、かなり魅惑的な事であった。

10-13 才まで過ごした香港とサンフランシスコの現地学校で、私はなぜか先生達に、「体育」と「音楽」と「美術」の分野で、うまく持ち上げられ、とりわけ美術=デッサン、色、デザインにはまっていた。その時得た英米文化のフレキシブルな考え方は、英語でのコミュニケーションがもたらす広がりと共に、私に多大な影響を与えたかも知れない。

息子ができて、職住近接のインテリアの会社に勤め、保育園と学童保育所にも迎えに行った。その子が中学入学と同時にもう邪魔される心配もないので、自宅に事務所を開設した。2000 年までの三年間は夫の仕事の都合でシンガポールで暮らし、アジアの文化にも接する事ができた。



光源が天井と洗面台下部にあり、浮遊感のあるゲスト用トイレ
スケッチ: 岩崎

■スケッチは手描き、施主との「3回ポリシー」

現在は昔勤めていた M 社の OG 数人でグループをつくり、その会社の協力会社としての仕事もしている。例えば高層マンションの自由設計分譲部分の設計。購入者に、コンサルティングをしながら設計を進めて、住空間を提供している。中小ビルのペントハウス部分のオーナー邸設計、ビル・マンションのエントランス部分の提案、モデルルーム etc. が守備範囲である。

M 社内にチームのための作業スペースがあるが、図面作成等はそれぞれ自分たちの城で行っている。プレゼンボードの立ち上げなど広さと人手が要る時にそこへ集合する。図面はメールでやり取りし、電話やファックス、インターネットで情報交換が可能で、一箇所に集まらなくてもグループで作業ができる時代となった。こういう環境にいと 24 時間仕事人間になりがちだが、無理をせず時間の配分を調整し、「遊び」の島 (ひま) に漂着している。

施主とのやり取りには「3回ポリシー」を決めている。最初はさりげなく提案、2 回目は手描きのスケッチを添えてビジュアルに解説し、3 回目で GO サイン。

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5

麹町E・C・Kビル (株)生活構造研究所内

TEL 03-5275-7861 FAX 03-5275-7866

メールアドレス uifa@LIQL.CO.JP

発行 2004年2月26日

■この指とまれ報告

国際子ども図書館と
国際アンデルセン賞作家・画家展を観る

北島三和子

毎年開催される板橋美術館でのポーロニヤ絵本原画展を、好きで見ているものですから興味があり参加しました。ご案内役は、川西美紗さん。この国際子ども図書館をはじめ、軽井沢の絵本の館等、生みのご苦労から今に至るまで、信念を持って関わって来られた児童文学者ですから、素朴な質問にても的確な解説を頂き、短い時間でしたが「子どもたちを考えると」に有効なひと時でした。



増築されたガラスのエントランスにて

川西さんによれば、この賞はこのジャンルのノーベル賞に等しい格式の高いもので、年に一人選出される誠に素晴らしい「作家賞」と「画家賞」を獲得された方々44人の原作品展でした。受賞者たちの生きた歴史の中での国柄、人柄、体験によって作風は様々で、共通するものは、子どもへの深いヒューマニズムに満ちたメッセージです。幼児時代の大切な時期にこそ伝えておきたいことを、文字や画の力で、ユーモアやナンセンスや遊びを通して質の高い教訓として、「そーと」けれども真摯に学ばせて行く、という強い想いを感じさせるものばかりでした。これからはますます童話には目がはなせなくなりました。

帰り際にアプローチ脇の大きな木製の「国際子ども図書館」という表札に驚きました。なんともミスマッチな、隠された権威の象徴のようなデザインなのです。日本の子ども達の、暮らしと文化の蓄積に貢献するものとは思えませんでした。心残りを味わったのは私一人ではなさそうです。

■ UIFA 会員の本

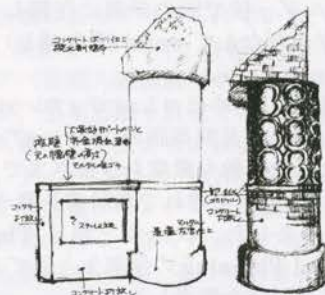


男と女の建築家が語る
家づくりの話

丸谷博男・中野晶子著 工業調査会発行

あたりまえのことだが、家づくりにはそれぞれのドラマがある。こうしたドラマを中心に、男女2人の建築家が、自分自身のドラマも含めてこの本を書いている。事例として出てくる家は詳細図で細かな内容を説明するというより、その家族の住まいづくりの思いをどうプランや形に生かしたかを、写真と文章で表現している。それが家づくりのプロセスを、臨場感を持って伝えている。タイトルから想像されるねらい通り、2人の考え方の違いがそれぞれの特徴を引き立てて見せていることも面白い。この本を読んで、これから建築を目指したいという思いをもつ学生もいるのではないだろうか。(須永)

■UIFA 関連団体からのよびかけ
同潤会大塚女子アパートメントハウス
玄関ポーチ飾り柱移設事業へご協力を!



門柱保存案イメージスケッチ

同潤会遺構の中でも唯一の公共の所有であった大塚女子こそは、保存再生をすべきと「生かす会」や「建築学会」をはじめ多様な人々が活動してきましたが、無念にも2003年秋に東京都によって解体されました。解体の折に各遺構の部品が部分的に助け出され、昨年11月「同潤会展」が建築会館で開催されましたのでご覧になった方も多いかと存じます。大塚女子の遺構も、玄関ポーチの飾り柱、中庭に置かれていたタンブラー、階段の手すり、エレベーターの防火扉と中扉、そして音楽室のステンドグラス風の小窓の5点が助けだされました。それぞれ美しく、保存先についていくつかの候補地をあげて活動しておりましたところ、「同潤会展」をご覧になった建築学会長の英断で、建築会館内に一部保存をすることが決まりました。これからの近代建築保存再生運動の象徴として建築会館内に一部でも保存される意義は大きいと思います。ここに皆様方の思いを寄せていただき、その基金(150万円目途)によって実現しようと多方面に呼びかけている次第です。ぜひ募金にご協力ください。(渡辺)

郵便為替、一口2,000円、平均5口10,000円、口座番号00100-0-703485、口座名称:旧同潤会大塚女子アパートメントを生かす会代表者 小川信子

■役員会報告

第7回 2003年11月25日(火)

議事:「10年の歩みデジタル化」の情報提供を呼びかけている。

NLの配布先、UD小冊子に付いて企画計画書の作成を広報に要請。「学校のトイレ」見学会2件報告。

第8回 2003年12月18日(木)

議事:今年度上半期中間決算報告。NL今後は毎回300部発行を決める。デジタル化の内容が具体的に、作業が進んでいる。UD小冊子予算の決定を最優先する。前回と次回海外交流の開催の報告と計画について。

第9回 2004年1月20日(火)

議事:中間決算報告。NLの配布先、発行部数の再検討及び59号案提示。UD小冊子発行の印刷方法及び予定金額を確定。デジタル化の進行報告。海外交流の会について。

■編集後記

仕事でも研修の演習課題でも高齢者のことを考えた3ヶ月でした(石川)、平和な年でありますよう。今年もニュースレターにご協力を(田中)、情報提供が命と言いつつ、こちらも動かなければ…(須永)、人生80年熟年再スタートに、新しい住環境を提案する事が増えてきました(中野)、同潤会アパートメントとその保存再生活動で学んだことはすごく大きい。これからは生かしたい(渡辺)、青い空に超高層住宅がそびえる、ますます足下の街づくりが課題です(井出:編集長)。

やわらかな住環境を作ります。

PROFILE
WINDOWS

プロファイルウインドーは高性能木製サッシです。

株式会社 アイランド プロファイル

TEL. 03-3754-7043

Fax. 03-3754-6943

http://www.profile-windows.com